

現状と課題

家庭、学校、地域社会の関係が希薄化し、モラルや社会規範が低下したことにより、非行、いじめ、ひきこもり、不登校や少年犯罪の凶悪化・低年齢化など、子どもをめぐる様々な問題が深刻化してきています。

さっぼろの次代を担う子どもを守り、大人と同じ人間としてその利益を最大限に尊重されるよう配慮することが求められています。

子育て中の多くの女性が、育児に対する4つの負担感（経済的負担、精神的負担、時間的拘束の負担、肉体的負担）により、不安やストレスを感じるようになってきました。

子育てと仕事の両立を指向する女性の多くが、今後も働き続けるために「子育てに対する職場理解と支援」や「保育施設」を求めています。

すべての子育て家庭が安心して子育てできる社会に向けて、子育て家庭を地域社会全体で支えあう市民意識の醸成と子育て支援システムが求められています。

少子化をはじめとする現代社会の様々な変化により、子どもたちが「ゆとり」のない環境に置かれるとともに、子どもが本来持つべき自主性や社会性が育まれにくくなっていることが指摘されています。

子どもが調和のとれた一人の人間として、将来に向け自己を確立するには、子どもが成長する場として欠かすことのできない家庭や学校、地域社会が連携するとともに、挫折を含めた体験を成長段階に応じて豊かに積み重ねていくことが必要です。

子どもを健やかに生み育てるためには、保健・医療・福祉の連携による母性及び乳幼児等の健康の確保・増進を図ることが求められています。  
特にこれから親となる若い世代が心身ともに健全に成長するための環境づくりに向けた、思春期からの母性・父性の育成が求められています。

子どもを安心して生み育てるための、子どもと子育て家庭に配慮した住環境の充実とともに、安全で快適に暮らせるまちづくりが求められています。

基本的視点

子どもの視点

次世代を育成する長期的な視点

社会全体で支援する視点

基本理念

基本目標

子どもの権利を尊重する社会づくり

健やかに生み育てる環境づくり

子育て家庭を支援する地域づくり

次代を担う心豊かな人づくり

子どもと子育て家庭にやさしいまちづくり

基本施策

- 子どもの権利の普及・啓発
- 子どもと母親の健康の確保
- 小児医療の充実
- 次代を育む親となるための意識の醸成
- 情報の提供と相談支援体制の充実
- 子育てを支援する人材・団体の育成
- 地域での活動の場の提供
- 経済的支援
- 子育て家庭に配慮した労働環境の整備
- 多様なニーズに合わせた保育サービスの充実
- 特別な援助を要する家庭への支援
- 少年の健全育成の推進
- 魅力ある学校教育の推進
- 豊かな住環境の整備
- 公共施設等の身近で魅力的な空間の確保
- 子どもの安心・安全の確保